
2001年11月

第1回ステップファミリー支援イベント

SAA(全米ステップファミリー協会)会長・CEO

マージョリー・エンゲル氏 講演 資料

★ 一般向け講演会「幸せなステップファミリーになるために」★

P2～

東京会場

日時：2001年11月3日(土)

場所：日本子ども家庭総合研究所

大阪会場

日時：2001年11月11日(日)

場所：尼崎市総合文化センター（アルカイク）

★ 専門家向け講演会「ステップファミリーへの支援について」★

P18～

日時：2001年11月4日(日)

場所：東京ボランティアセンター

参加者の感想 P37～

本資料配布の目的 P40～



マージョリー・エンゲル氏 講演@関西 「幸せなステップファミリーになるために」
- Living and Loving in a Stepfamily

(本文は当日の講演内容のテープ起こしと、スピーチ原稿をもとに編集したものです)

■ステップファミリーとは

ステップファミリーというのは、夫婦のどちらか、もしくは両方が前のパートナーとの子どもを連れて結婚した時に誕生する家族のことです。

夫と妻が両方子どもを連れて、新しい家庭をつくる場合もありますし、父親の方だけが子どもを連れて来る場合もあれば、母親の方だけが子どもを連れて来る場合もあります。小さい子どもだけがいる家族もあれば、既に成人した子どもを持つ家族、成人した子どもと小さな子どものコンビネーションの家族、と様々な形態があり、その文化的な背景や宗教的、人種的な背景によっても、いろいろと複雑になってきます。また、離婚後、親のどちらかと一緒に暮らしていない子どもにとって、離れて暮らす実の親の新しい家族も、ステップファミリーとなります。世界中で、ステップファミリーの数は増えてきています。

ここで再婚、つまりステップファミリーの誕生の背景について、少し触れておきます。再婚は、それ自体古い歴史を持っているのですが、今日、社会の変化に伴って再婚の形も変わってきています。以前は、「配偶者の死別後の再婚」が多かったのですが、今日ではその多くが「配偶者との離別後の再婚」と変化しているのです。

全米ステップファミリー協会(SAA)は、ステップファミリーの人々に対して、様々な情報やサポートを提供しています。そして、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、日本、そしてニュージーランドなどのステップファミリーサポート組織と一緒に仕事をしています。

世界中を通してみて、ステップファミリーのよく似通った点が挙げられます。

- ・家族構成が非常に複雑であり、経済的な問題を抱えることも多い。
- ・子どもが、2つの家（離れて暮らす親）を行き来することがある。
- ・別れた前のパートナーと協力しあわなければいけないことがある。
- ・ステップの親（継親）は、自分がアウトサイダーのような気持ちになることがある。
- ・自分がどんなに重要な役割を担っているかということを理解している父親が少ない。

子どものいる女性と結婚する男性は、夫となると同時にそこにいる子どもの親にもなるのです。つまり、家の中での躰やルール、子どもを育てていくということに関して、責任が生じるわけです。例えば、宿題を手伝うこともあるでしょうし、学校の先生と会わないといけないこともあるかもしれません。

子どものいる男性と結婚した場合、その女性は子どもと接する時間が父親よりも断然長くなり、日常の子育ては血の繋がらないステップマザーに任されることが多いかもしれません。けれども、本来ステップマザーは実のお母さんの代わりではなくて、まずは父親のサポーター的存在になるわけです。ですから、父親はその継母子間の良いクッションになることが必要です。父親が子育てに参加しないステップファミリーでは、多くの様々な問題を抱えてしまうことになるでしょう。

■離婚後の親子関係

アメリカでは、離婚後も子どもは両方の親と時間をとって会っています。離れて暮らす親と面会を続けることは、新しいステップファミリーにとって負担となる、新しいステップの親にとっては大変なストレスになってしまうという考え方があります。しかし、SAAの研究結果によりますと、離婚後も両方の親と会って、時間をとって過ごすことが、子どもの成長にとってよいという結果が出ています。

子どもが誰のものか決める時には、遺伝子という生物学的なもの、子どもに対する思いやりの気持ち（テnderラビングケア）、その2つが関与していると思います。世界中で見られる離婚率の上昇と連動して、再婚率も上がっていますが、つまりそれは子どもがたくさんの親を持っているということです。子どものためを思うことのできる大人が複数いて、協力し合うことはよいことでしょう。

アメリカにおいては、ステップの子どもたちとの養子縁組を法律で禁止しています。継親は、ステップの子どもに対して全く法的な権利を持ちません。例えば、継親といる時にステップの子どもが大きな怪我をして、病院にかけつけたとします。その際、病院側は治療をするにあたって親のサインを求めます。けれども、この継親には親として、適切な医療を子どもに与えるという許可の権利がないのです。一緒に暮らしている継親ではなく、年に数回しか会わない実の親のサインにしか効力がないということなのです。

継親が自分のステップの子どもを養子として引き取る時には、実の親による許可が必要となります。これは、実の親は、子どもに関する権利をすべて放棄した、ということになります。このような規則は、「ステップの子どもたちの経済的負担を継親が負うと法律で決めるとすると、ステップのお父さんたちは結婚を喜んでするようにはならないのではないか」という考えからなのです。SAAでは、ステップの子どもたちが実の親との縁を切られてしまうことなく、また家族の現状に合った法的な継親の地位を得ることができるようにと考えています。

現在の日本においてはシングルマザーが再婚した場合、新しい夫が子どもと養子縁組を結び、父親の役割をとることができるそうですね。そして、血の繋がりのある父親との交流を絶ってしまうケースが多いと聞きました(遺産相続の権利等は残るが、実質関係を絶ってしまうことが多いということ)。けれども、もしそこで、もう一度離婚が起こると、その養子縁組は消失してしまいます。

アメリカにおいては、子どもと養子縁組を結ぶ時には、法的にその血の繋がった親の代わりになっています。ですから、そこでもし離婚が起こったからといって、その子どもに対する責任は消えませんが、アメリカの離婚に関する法律というものは、子どもに対する養育の法律を含んでいます。ですから、離婚=父親と母親の2者におけるただ単なる同意というものではありません。もし、離婚後、子どもに対する養育費を払わないと一方が主張すれば、その法律によって離婚不成立というふうに定められています。

世界中でステップファミリーというものは、いろいろ難しさを持っているのですが、それは、国が、結婚の形態の様々なパターンを認めず、決まりきった小さい枠の中に入るようなものだと考えているからだと思います。

■ステップファミリーの持つ問題

いろいろな問題が出てくるかもしれませんが、それはステップファミリーだから起こる問題というわけではありません。

<個人的な問題>

- ・ステップファミリーに対して非現実的な期待をしていること
- ・成長期の子どものこと
- ・離婚に対して感情的にひきずったままに再婚していること

<社会的な問題>

- ・初婚に基づいている、考え方や法律
- ・社会が、最初の結婚とステップファミリーとの違いというものに気づいていないこと

場合によっては、社会が、ステップファミリーをセカンドクラスのものであり(一般家庭に比べて劣るといった意味)、あまりいいものと見ていないということも考えられます。これらの問題は、ステップファミリーの中の問題ではなく、外の問題です。

一方、確かにステップファミリーの問題もあります。

<ステップファミリーの問題>

- ・経済的な問題
- ・ステップの親とステップの子どもとの関係がうまくいかないこと
- ・もうひとつの家庭があること→子どもの面会やそのスケジュールを組むこと

ステップファミリーに関する法律や、政策というものは国によって違います。しかし、世界中のステップファミリーの人々が、知っておくべきことがあります。

それは、あなたは一人ではないということ、そして、ステップファミリーは、セカンドクラスの家族ではないということ、ステップファミリーに関する知識を持つことがとても有効だということです。最初のうちは、いろんなことがごたごたするのは当然ですが、血縁を超えてずっと一生続く、素晴らしい絆を持った家族になっていくことができるのです。

■SAAの歴史

SAJ代表から、全米ステップファミリー協会（以下SAA）をどのようにして作っていったかという事について、みなさんにお話するように頼まれています。

エミリーとジョン・ヴィッシャーは、それぞれが4人の子どもを連れて再婚しました。エミリーは博士号を持った心理学者、ジョンは精神科医でした。職業柄、自分達はステップファミリーを作っていくのに十分な知識があるはずだと彼らは思っていました。けれども、現実は違いました。彼らは18年間、新しい家族において本当に多くの壁を乗り越えてきました。そして、もう少しサポートがあったら今までの道のりは、もっと楽だったのではないかと、思いました。

そこで彼らは、カリフォルニアで小さなグループを作りました。今から、約24年前のことです。これは、今まさにひろこさんがやっていることと同じです。私たちは、これを「草の根運動をする組織」と呼んでいます。どういう意味かといいますと、いろんな援助を必要としている人達が、組織を実際に作って運営していくということです。これは、インターネットなどが出てくるよりもっと前ですが、彼らはニュースレターを作りました。そして、マスコミ等がその活動を取り上げ、テレビやラジオを通じて放送された結果、たくさんの人がそのことについて知るようになりました。

エミリーは、「グループに参加した人達は、自分以外の多くのステップファミリーと出会えて、自分達の経験や持っている感情をお互いに話し合うことができ、みんな本当に幸せそうだった」というふうに言いました。エミリーがステップファミリーの活動に参加するために、ジョンが買い物や料理をして支えることもありました。彼らは、自宅でいろいろな事務作業をしていきました。そして、

やっと数年後に初めて、有給のスタッフを雇うことができました。

SAAの設立当初、役員はすべてがセラピストもしくはステップファミリーの当事者でしたが、今では、法律の専門家や医者や経済に関する専門家、もしくは牧師といった方も関わっています。こういった人々は、全員ボランティアで役員をしてくれています。私以外のみんなは、他に仕事を持っていてSAAでボランティアをしているのですが、私はまったくフルタイムでボランティアをしています。私達は、ニューズレターをどんどん充実させ、大学院生のリサーチの手伝いもしています。また、カード会社とも一緒に、ステップファミリーのためのカードを作ったりもしています。専門家向けの教育プログラムを主催したり、1998年にはステップファミリーの日“Stepfamily Day”を9月16日に設定しました。このアイデアを最初に持ってきた人にとっての記念の日ということで、この日を定めました。ここ何年間にわたりまして、ヴィンチャー夫妻は彼らのステップファミリーに対する活動に対し、様々な賞を受け取ってきました。彼らは6冊の本を出版し、数えきれないほどたくさんの記事を書いてきました。春名さんが日本語に翻訳されたのは、そのうちの1冊“HOW TO WIN AS A STEPFAMILY”（邦題）『ステップファミリー～幸せな再婚家族になるために～』です。

ステップファミリーに関してエミリーが特に関心を持っていたことは、夫婦の絆でした。最初の結婚においてはたいていの場合、子どもを持つ前に、カップルだけの時間というものがあります。しかし、ステップファミリーは、最初から子どもがいますので、カップルだけの時間というものがないんですね。エミリーの最後の講演は、「Love Under Siege 不屈の努力のもとにおける愛」という題でして、副題は「ステップファミリーにおける夫婦のありかた」ということでした。

今年の10月に、エミリーが亡くなりました。エミリーとジョンは、来日してこのプログラムに参加することを大変楽しみにしていたのです。彼らはみなさんに、幸せなステップファミリーになるためのヒントを分かちたいと思っていました。けれども、彼らは来ることができませんでしたので、とても大切な友人の遺志を継いで、私が代わりにみなさんにそのようなヒントを伝えることができたかな、と思います。エミリーのお葬式に参列した際、ジョンから日本のみなさんに是非伝えてほしい、とメッセージも預かっています。

■成功するステップファミリーのためのヒント

●ステップファミリーというのは、最初の家族とは違うということを理解すること

みなさんがよくお持ちになるような、居心地の悪い気持ち、感情というものは、この違いからきているものだと思います。

●ステップファミリーというものは、何らかの喪失があつてからつくられたものである

時によっては、それは配偶者の死というような本当の終わりであるかもしれません。もしくは、離婚によって、結婚生活が終わったということかもしれません。物事の終わりというものは、とても難

しいと思います。その喪失したことに對して、また変化するというに對して適応しないといけな
いからです。離別・死別→ひとり親家庭→ステップファミリーへの移行や、子どもを持った経験のな
い人が、いきなり親の立場となってパートナーの子どもと生活することは、なかなか容易なことでは
ありません。大人も子どもも、深く心を痛めると思います。

<大人の悲しみ>

- ・パートナーを失ったこと
- ・婚姻関係を失ったこと
- ・結婚生活に描いた理想が破れてしまったこと
- ・相手に対して、自分が一番最初の妻、一番最初のパートナーでないということ
- ・引越しをする、仕事が変わる、生活のスタイルが変わるということ

<子どもの悲しみ>

- ・片方の親を失ったこと
- ・引越しや転校による親しい友達との別れ、新しい友達を作らないといけない

こういった心の痛みが解放されないままに持ち越されると、新しいパートナーとの関係において対
立的な感情になるかもしれませんし、子どもが新しい親をなかなか受け入れにくいというような原因
であるかと思います。

●親子の関係が、新しいカップルの関係よりも長い歴史を持っている

ひとり親家庭という体験は、その親子に強い絆を築かせたでしょう。けれども、このことが新しい
ステップの親にとって、自分はよそのものだというふうに感じさせることがあるかもしれません。です
から、新しく夫や妻となる相手としっかり絆を深めること、子どもたちに実の親との絆はこれまで通
り特別だという気持ちを持たせること、新しい親子の絆を深めることをそれぞれ意識しなくてはいけ
ません。また、家族みんなで一緒に何かをすることが必要です。

●子どもにとって、自分と血のつながりのある親（片方の親）が、違う場所にいる

たとえ、その別れた方の親と全然面会をしていない、もしくは亡くなってしまっている場合であっ
ても、もうひとりの親は、子どもの心の中にはずっと存在しています。それは、新しいステッ
プの親も、新しい家族が知らない、自分自身の過去の中の人を自分だけが持っているということと同
じだと思います。アメリカの研究によりますと、子どもは別れた血の繋がりのある親とも過ごす
時間を持つことが、子どもが新しい家族に適応していくのに一番いい形だという結果が出ています。
もちろん、このような、子どもが時にはあっちに行ったり、こっちに行ったりということは、ステッ

プファミリーにとってとても不安定に感じるのだと思います。けれども、

子どもに関わるすべての親である、継親も、実親もどちらも愛していいんだよときちんと子どもに言ってあげる、教えてあげることが大切だと思います。一番適応しにくい難しい問題を持っている子どもというのは、そのどちらかを選びなさい、選ばないといけないというプレッシャーを持っている子どもです。ステップファミリーを成功させるためにも、両方の親が、お互いのすべての過去を認めるということが大切だと思います。

●ステップの子どもとの絆ができる前に、親の役割を引き受けない

多くの場合、継親は周囲から、親の役割を引き受けることを期待されるでしょう。そして時には自分がまだ準備できていないのに、親になろうとしてしまうことがあります。けれども、自分の子どもを持ったことがない人にとって、このことは特に難しいことなんです。「子育て」は、もともと誰にでも備わっている能力で、すぐにでもできるというふうに思われてしまうと、そこで問題が起こってきます。ですから、お父さんと新しいステップマザーがいらっしゃる、そういうケースにおいても、ステップのお母さんが子育ての主要な役割をとるのではなくて、最初はお父さんが主要な子育ての役割をとるということです。

また、ステップの親とステップの子どもが、絆を結んでいくには時間がかかるということを周囲の人も当事者も理解しなくてはなりません。そして実の親は、ステップの親と子どもがお互いを知り合うプロセスを助けることができます。例えば、子どもが小さい頃の写真やビデオを新しいステップの親に見せてあげたり、どんな食べものやゲーム、服の色、本が好きかといった、子どもの好き嫌いについて教えてあげたりといったことです。

継親が、別れたり、亡くなった親のことを子どもと話ができるようになれば、それは子どもをとっても助けることができます。つまりそうすることによって、ステップの親は子どもに、どちらかの親を選ばないといけないというのではなくて、両方の親のことを愛していいんだよというメッセージを送ることができるからです。

■ステップファミリーに関する神話・間違っただ思い込み

神話というもののために、時には家族に対して間違っただ見方をしてしまう場合があります。でも、それは神話、間違っただ思いこみであって本当ではないということを知っておかなければいけません。

●子どもと新しいパートナー（継）親との間の愛情というものは、即時に生まれる

自分のパートナーを愛しているのだから、自動的にその人の子どもも愛することができるのではないかと、というような思い込みがあります。子どもにとって、親を愛して受け入れるのには、時間がかかるのです。

●離婚、再婚をした子どもは、一生傷ついたままである

両親が離婚したことは子どもにとって、とても辛い難しい経験です。しかしながら私たちのリサーチでは、時間はかかるけれども、多くの子どもたちは落ち着きを取り戻しているという希望ある結果を得ています。だいたい5〜10年が経過すれば、そのステップファミリーの中の子どもも、再婚を経験していない子どもと同じくらいに幸せな生活をしているということなのです。

●継母（ままはは）はとても意地悪である

この考え方は童話から来ていますが、このことは、いい母親になろうとしているステップマザーに悪いイメージを与えてしまいます。ステップマザーはこの「意地悪」という思い込みのために、本当に素晴らしい継母でないと周囲からなかなか認められないと思ってしまうかもしれません。でも、みなさん、ここにステップマザーの方もおられると思いますが、「継母が意地悪」、それは真実ではありませんよね。

●ステップファミリーとしての生活に、すぐに適応できる

ステップファミリーには、いろんな人が関わっていて非常に複雑です。ですから、それぞれのメンバーがお互いのことを知り合うのに時間がかかるのは当然のことなのです。それは数ヶ月でできてしまうものではなく、少なくとも4年ぐらいはかかると思われれます。

●別れたもう1人の実の父親もしくは母親との関係を切った方が、子どもは離婚や再婚に、より早く簡単に適応することができる

子どもは、2人の血のつながりのある親を持っています。そして、ステップの親と血のつながった親との両方に対して自由なアクセスがある場合、子どもの成長にとって一番良いということが調査を通して解かりました。ですから、離れて暮らす実の親の存在をないものとして、常に親は2人だけという状態にしてしまうことがよいわけではありません。

●離別後より死別後のステップファミリーの方が、困難が少ない（容易である）

子どもはいつまでたっても、その亡くなった親のことを覚えています。また、配偶者がお亡くなりになって再婚された方は多くの場合、前の結婚とよく似たような結婚生活を送ることを望んでしまいます。新しいパートナーは、亡くなって非常に理想化された元の配偶者といつも闘うこととなります。つまり、理想化された素晴らしいゴーストと闘うことになってしまいます。一方、離婚で結婚生活が終わって再婚した場合は、大抵その再婚された方は前の結婚とは違うものを望みます。

●よい家族とは、血のつながった両親と子どもがいる最初の結婚による家族である

ひとり親家庭、里親家庭、ステップファミリーなど、今日、世界中にはいろんな形態の家族がいます。また、再婚は、前の生活をもう一度やり直すというものではありません。そういうことを望んでいるのであれば、自分の思っているようにいかないと、とてもイライラする経験をするでしょう。

■成功するステップファミリーの秘訣

それでは、どうすれば、ステップファミリーはうまくいくのでしょうか。

●夫婦が強い絆をつくる

- ・夫婦と一緒に過ごす時間を作る
- ・家の中の新しいルールを一緒に作る
- ・子育てをするのに、お互いにサポートし合う
- ・実の親子間の感情と、ステップの親子間の感情というものは違うということを理解して認める

子育てに夫が参加してサポートしてくれることは、本当に妻を幸せにしてくれることだと思います。子どもが前の親を訪問することは、なかなか受け入れがたい難しいことかもしれませんが、そうすることで夫婦が2人の時間を持てる、そういうふうにも考えてみてください。多くの継親は、2人だけの時間をハネムーンに戻ったような気分で過ごせることを喜びます。

●喪失と変化を認める

離婚や再婚において、子どもが悲しい気持ちを持っているならば、それを胸にためてしまわないで、話して解放することを助けてあげてください。気持ちを話させてあげることで、ネガティブな感情のままに行動してしまうことや引きこもってしまうことを防ぐことができます。子どものもう一方の親と、張りあうような気持ちになるのではなくて、ご自分の自分らしさを大切に、お子さんと接してください。

●現実的でない期待について理解する

- ・家族がみんな、すぐにでも幸せになる
- ・ステップの親とステップの子ども間に愛情がすぐにでも成り立つ
- ・ステップの親が子どもにすぐに受け入れられる、歓迎してもらえる

などといった、ステップファミリーに対して自分がとても現実的でない考えを持っているのではないかということに自分自身で気づいてください。

時には離婚後、死別後に、子どもがおじいさん、おばあさんと一緒に時間を過ごしたりして、そこですごく甘やかされている場合もあります。そうやって甘やかされてきた子どもは、新しくステップマザーがやって来ているんなルールに対して「こうしてこうして」などと言われるのをすごく嫌がる

かもしれません。

●ステップファミリーの中で新しい関係を築く

- ・ステップの親と子どもは、1対1で時間を過ごす必要があります。

実の親は、ステップの親と子どもが2人で関係を持てるように一歩退くことも必要かもしれません。本当に愛情が起ころには、時間がかかるかもしれません。

- ・たとえ、愛情が発生していなくても、子どもに対しては常にフェアでいるようこころがけましょう。
- ・一緒に楽しいことをできる時間を持つようにしましょう。

例えば、映画を観に行く、公園に散歩に行く、動物園に行くなど。毎日特別なことが起こるというわけではありません。

●新しい習慣をつくる

例えば、2つの違う家庭において、お祝い事などを全然違う形で祝っていたかもしれません。ですから、お互いの2つの家庭から少しずつとるなどして、新しい習慣をつくってください。アメリカの場合ですけれども、今回の祝日はこっちの家族で、次はこっちでというふうに順番に違う家庭で子どもが過ごしたりしています。例えば、今年のクリスマスはこちらではなく向こうの家庭、親と過ごすかもしれません。そうした場合は、こちらの家庭では、違う日にクリスマスをお祝いすることができます。クリスマスのお祝いをしない場合でも、誰かの誕生日を大きくお祝いすることができるのではないのでしょうか。

●本当に必要な時は、サポートを求める

SAJ 初代代表の春名さんは、SAJ（ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン）を設立しました。そこでの活動は、調査などを通してステップファミリーに関しての情報をたくさん集めることであり、また、同じ経験をしている方たちでグループを作って、自分たちの経験や感情を話し合うことです。

例えば、ある家庭に問題が起こった場合、その問題は違う家庭ではこういう解決の仕方をしたよ、とお互いに話をする場を持つことは、とても役に立つのではないのでしょうか。例えば、ある家庭に問題が起こった場合、その問題は違う家庭ではこういう解決の仕方をしたよ、とお互いに話をする場を持つことは、とても役に立つのではないのでしょうか。例えば、ある家庭では、いなくなった親に対して淋しがって毎日泣くような子がいるかもしれません。それと同じ経験を他の家族もしているかもしれません。ステップの子どもが自分の作った料理を食べてくれないということもあるかもしれません。ステップの子どもたちの中できょうだいゲンカが激しいこともあるかもしれません。あるいは、自分の配偶者が子どもに対して、こんなふうやってほしいなあと思っていることを、なかなかしてくれないという場合もあるかもしれません。

そこで、同じ経験をしている人たちと一緒に集まって、自分のフラストレーションやエピソードを話している中で、こういう解決があるんじゃないかな、というふうに話がどんどん広がっていくかもしれません。たとえ、話し合いの中でうまい解決法が見つからなくても、そういう気持ちをシェアすることで、少なくとも悩んでいるのは自分だけじゃないということは解かります。また、自分の経験から、こういういいヒントがあるよ、と分かち合うこともできます。不平不満を言うだけの場所ではなくて、前向きなことを話し合える場となるのではないのでしょうか。

●子育てチームをつくる

離婚によって様々な問題が出てきますけれども、それに対する責任はその離婚した親にあるのであって、子どもにその責任はありません。子どもに2つの家を行き来することを許してあげることが必要です。しかし、子どもがもう片方の親のもとで、時間をどんどん過ごすようになるにつれ、ストレスを感じることもあるでしょう。別れた配偶者と一緒に協力し合わなければならない、直接の関わりを持たないといけないということもあります。けれども、子どもに対して、別れた配偶者のことを決して悪く言ったりしてはいけません。そしてまた、もう一方の親がやるいろんな違うやり方があるかもしれないけれども、相手のやり方を尊重することも必要だと思います。それも本当に簡単なことではありません。もし、それが簡単なことならば、最初からその相手と離婚をしていません。向こうに子どもが行って帰って来た時に、向こうでどんなことが起こったのかなど、詮索するような会話は避けましょう。

それでは、Q&Aに移ります。

一般向け講演 Q&A



Q1-1

来年の春に結婚をしようと予定しています。

夫側に高1と中1の男の子、妻側に高2の女の子と中2の男の子で、妻の方が、引越しと転校をして、現在の夫の家に6人で住むことになります。

子どもとはいえ思春期で、自分の世界も持っており、これまで数回6人で一緒に遊んだり、泊まったりしてきましたが、子ども同士の関係を作っていく難しさを感じています。特に、田舎に住む為、全員18歳になれば家から出て進学しなくてははいけません。これからどういう点に配慮して、彼らと良い関係を作っていけばよいのでしょうか。ヒントなり考え方なり、ありましたら教えてください。

それから、一番上の女の子が高2なので、再婚しても後1年でまた、出て行くことになるので、再婚には反対しないけれど、自分の環境の変化に危機感が募るようです。再婚には同意しているみたいですが、その子と新しいお父さんとの関係をどう築いていくか。

それから、子ども同士の関係についても伺いたいと思います。

前の配偶者との関係については、夫は10年ぐらい前に死別、妻は元夫とは、もう10年ぐらい何も関係がない状況です。

A1-1

アメリカにおいてですが、だいたいティーンエイジのお子さんを連れた再婚というのは、小さい子どもを連れた再婚よりも難しいケースが多いようです。ティーンエイジャーぐらいになりましたら、自分の住む町や友達というふうに自分自身の世界を持っています。また、その家族が引越ししなければならないという場合は、難しいと思います。慣れた場所から離れてしまうし、新しい環境にも慣れなくてははいけません。また、入って来られる側の家族にしてみたら、侵略された、侵入されたというような気持ちになるかもしれません。今まであったスペースに他の人が入ってくる、部屋も取られるかもしれない、そういう気持ちになるかもしれません。

このケースの場合、娘さんがいらっしゃいますが、気をつけないといけない点としまして、娘さんと他のステップのきょうだいとの関係というものもあると思います。年頃の男の子と女の子ですので、性的な何かそういうものを引き出すような関係になってしまうこともありえるからです。ステップのきょうだいが、ボーイフレンド、ガールフレンドといった関係になってもいいものか、そのあたりのことに関してすごくはっきりしないもやもやとした気持ちを子どもたちは持っています。

また、特に子どもがある程度大きくなった場合には、家族内の強い絆を結ぶのはなかなか難しいと思います。その場合、ステップペアレントは、ステップの親だというより、友達感覚になってしまうと思います。一緒に楽しいことをして時間を過ごすことはもちろん大切ですが、「自分の子どもになってほしい」という気持ちを前面に出すのではなくて、やはり一定のラインがあるということをお認めないといけないと思います。最初はなかなか難しいですが、ラインがあると認めた上で、一緒に時間を過ごしていく中で近い関係が築かれていくかと思っています。

私の家庭のことですが、私が今の夫と結婚した時もステップの3人の子どもはみんなティーンエイジャーでしたが、私はその中のひとりと強い結びつきがあります。他の2人の子どもとは、フレンドリーな関係でいます。そういう関係ですけれども、みんなが一緒になって楽しい家族の時間を過ごすことはできます。

ひとつ提案できることは、家をオープンにすることですね。例えば、娘さんが大学などに進学されて出て行くことになるかもしれませんが、休みの時には自由に帰ってくるができるよう、家をオープンにするのです。引越する側のお子さんは、田舎の方に行かれるということなので、彼らの前の家にいたときの友達に対しても家をオープンにしてあげて、その友達が気軽に遊びに来れるような雰囲気を作ってあげるのもいいのではないのでしょうか。電話であってもメールであっても訪問であっても、前に住んでいた所の友達との関係を繋いでいくことも、その子たちにとって大事なことだと思います。

それと両方の家族が、シングルペアレントで過ごして来られた時間が長いと思いますので、それぞれの家庭のルールというものがあると思います。ですから、家の中でのルールを自分達で話し合っ新しいものを作っていくということ、気をつけてください。シングルペアレントの時間が長かった場合は、その親と子どもとの間ですごく強い結びつきがあるかと思います。今まで、子どもたちが片方の親のことをすごく助けてきたその家庭の中で、子どもたちは自分なりの役割を持っていたと思います。それがひとつの家族になってしまうと、彼らの持っていた役割というものがなくなってしまうことがあると思うのです。ですから、新しい家庭になってからも実の親と子の関係も大事にして、今までやってきたことがそこでなくなるのではない、としっかり子どもに伝えることも大事だと思います。また、ステップのお母さんにとって難しいことかもしれませんが、ステップの子どもが元のお母さんのことをいつまでも自分の中に持っているということを認めてあげてください。

Q1-2

中2の男の子が小学校からずっとサッカーをやっていて、生活の4分の3ぐらいがサッカー、後の4分の1がゲームという暮らしでしたが、転校先にはサッカー部がなくて、社会人サッカーが週1回あるだけ。今まで、サッカーというものが彼の人生を大きく占めていて、それがなくなっていくということをどう埋めていけばいいのでしょうか。

A1-2

私は全ての質問にパーフェクトに答えられる訳ではないのですが、例えばクラブがなくても、どこかでサッカーの試合があるのを見に行ったりだとか、学校にある、違うスポーツに興味を持てるように参加したり、新しいステップのお父さんと一緒になって近所の子どもを集めたりして、サッカーチームを作るようなことをやってみるのも可能じゃないかな、と思います。そうすれば、そのお子さん

とお父さんとの絆も一緒に何かやっていくということで、強くなるのではないのでしょうか。

Q1-3

夫側の下の子どもは、小さい頃に母親を亡くしていますので母親を知りません。母親を迎える側の子どもたちに父親がどんな話をしてやればいいのか、アドバイスをお願いします。

A1-3

完全に同居に入ってしまう前にできるだけ時間をとって全員で外出したり、何かの形で時間をたくさん取ってあげたり、というのが大切だと思います。「再婚に絶対賛成しないといけない」という意味ではないのですが、子どもと一緒に新しい家族と時間を過ごすことによって、お互いのことを知ることもできますし、自分でチョイスができるということなのです。認めないといけないわけではないし、認めるか認めないかは子どものチョイスですので、そういう選択ができるような機会を与えてあげることも必要だと思います。

それと、これから新しい家族が入ってくることで、どんな変化が起こるのかを前もってご主人が知っておくということは必要だと思います。例えば、部屋割りがどんなふうになるのかとか、家具を置く場所を変えるだとか、新しく家を改築するだとか、これからどんなことが起こるのかを前もって子どもたちと話すことが大事ですね。

お子さんたちも新しく入ってくるステップマザーのことをどう呼んだらいいかわからないと思うので、そのことも話し合ってください。子どもたちもほとんど大人に近い年齢ですので、全く新しいお母さんがくるという感覚では受けとめていないかもしれませんね。私たちはステップマザーに対してニックネームで呼ぶことなんかも提案しています。

Q2

ステップの家庭と別れた親の家庭の両方を自由に行き来した方が子どものためによいということですが、死別の場合、ステップマザーとして亡くなったお母さんのことに対してどのような態度をとることが子どものためによいのでしょうか(これまではできるだけ亡くなったお母さんのことに対して触れないようにしてきました)。

A2

子どもさんに対して、亡くなったお母さんのことは触れない、話さないで来られたそうですが、実際お子さんの心の中には亡くなったお母さんはやっぱり存在していると思います。子どもにとって、とてもつらい、難しいことは、大人が前の、別れた、もしくは亡くなった親が存在しないかのように

話したり、そういう態度をとることです。アメリカでは子どもが夜、寝る前にお祈りをしたりするのですが、そのときに亡くなったお母さんの名前を入れてお祈りすることも認めてあげるべきだし、その亡くなったお母さんの写真を家の中に飾ることも認めてあげるべきだと思うのです。

例えば、お子さんが前のお母さんを想って悔しい思いをしている時とかそういう時期もあると思うのですが、そういう時には子どもが何か特別なお手伝いや、いいことをした場合に、私たちはあなたがいいことをしてあなたのことを誇りに思うよ、亡くなったお母さんもあなたのことを誇りに思っているだろうね、というふうに言ってあげることも大切だと私は思います。

Q3

前の配偶者との子育ての協力に、こちらにはその気があっても相手（元配偶者）にその気がない時はどのようにすればいいのでしょうか。

A3

それだったら、できませんよね。必ず両方が協力し合うことが必要です。もしそのケースで、子どもが疑問を持って聞いてきた場合は、正直に言ってあげるべきだと思います。何も相手のことを批判した言い方で子どもに伝えるのではなくて、事実をそのまま伝えてあげるべきだと思います。その状態がずっと続くとは限らないと思うのです。相手の方も、状況によって態度を変えるかもしれません。だから、生涯その可能性を閉じてしまうのではなくて、今現在は相手に気がなくて残念ながら一緒にできないけれども、一生扉を閉じてしまうのではなくて、相手がそういう気になった場合に協力しあえるように扉はオープンにしておいてください。

場合によってですけども、時には別れた方の親が短時間しか子どもと過ごせないのであれば、自分が部外者のような気持ちになってしまうので、関わりを持たない方がいいと思っている場合があるかもしれません。もしそういう場合は、それに対して子どもと一緒に住んでいる親の方が、何かすることができますよね。例えば、もしお子さんがコンピューターを使える年齢であれば、Eメールを使って連絡をとるとか、もしくは子どもさんが小さい場合は絵を描いて、その絵を相手に送ってあげるとか、連絡を取り合うということが大事なのではないでしょうか。

Q4

離婚した相手に、4年間子どもを会わせていません。相手は子どもが自分で行けるほど近くではなく、私がお休みをとって子どもを連れていかなければいけないほど遠くに住んでいます。どんな会わせ方がよいのでしょうか。

A 4

子どもと別れた親との面会に関しては、子どもと一緒に暮らしている親に連れていく責任があるのではなくて、別れた方がこちらに来て会うというように、一緒に住んでいない親側に責任があるのです。ですから、例えば子どもさんの卒業式など何か特別な機会に、こちらの方に来てください、というふうに招待してあげるとか、向こうから来てもらう形をとれると思います。

Q 5

お互いの前の結婚生活（夫婦の間の）をどうしていたかを話し合うべきでしょうか、話すとしたらどのような点に注意すべきでしょうか。

A 5

やはり自分の中で、自分だけのものにしておきたいという部分はあるかと思うのです。それはそれで構わないと思うのですが、例えば何か特別の、こういうことをされたらどうしても嫌なんだ、などといったことがある場合は話し合った方がいいと思います。

前の家庭において、それぞれにいろんなやり方があったと思います。例えば、妻が「ご飯できましたよ」と家族を呼んだのに、夫がなかなか来ないという場合があったとします。夫にしてみたら、前の結婚生活では、だいたい「ご飯できたよ」と言われてから行っても、まだご飯はできていなくて、言われてから15分、20分後にご飯が食べられる状態だったという家庭だったので、呼ばれてすぐに食卓に集まる習慣がなかったのです。妻側は、すぐに食べることのできる状態にしてから、「ご飯できましたよ」と声をかける家庭だった、というふうにお互いに悪気は全くないけれども、前の結婚の習慣からそういう癖がついたりして、全然ケンカするようなことでもないことが、誤解をよんでケンカのもとになったりすることがあると思うので、そういう家庭の中での習慣みたいなことはシェアするといいかもしれません。

Q 6

離婚後、子どもと、別れた夫と、まったく会わせていないけれども、子どものためには、交流した方がよいのでしょうか？

A 6

これも、ご自身と前の夫との関係とか、それぞれのパーソナリティとかいろいろな問題が絡んでくるとは思うのですが、今4歳のお子さんも大きくなって、ティーンエイジャーになったときに、自分の血のつながったお父さんというのは、いったい誰なんだ、どんな人だったんだと、そういうふうに

考える時期が来るかもしれないと思うのですね。

日本ではないようなのですが、アメリカの場合だと、この別れたお父さんとお子さんとの関係をずっと繋いでいくということは法律で決まっています。アメリカでこういうケースがあったとして、やっぱりお母さんは会ってほしくないと思う場合が多いと思います。なぜかという、関係が余計複雑になってしまうのではないかと思うからです。アメリカでは法律で決まっているから会うんですね。

子どもさんは赤ちゃんの時に父親と離れていらっしゃるようですので、2人で会わせるというのはなかなか不安だと思います。例えば、そこに違う友達も連れてきて会うとか、ご自身が参加されて3人で軽いランチに行くとかそれぐらいの感じで始めてもいいかなとは思っています。そうすることによって、2人きりで会わせてしまうのではなくてご自身がスーパーバイズの役割みたいな感じで、一緒に行かれて3人で会えば、子どもに対する心配というのもしは安心かなと思います。

アメリカでは、このスーパーバイズがついた面会というのは、すごく数が多くなっているんですね。やっぱり、そういう場合、お母さんにとっては別れた親と子どもだけを会わせるというよりも、そこに誰かスーパーバイズする人が来てくれることですごく安心できると思います。前の夫が悪い人だからスーパーバイザーをつけなくてはいけない、という意味ではなく、ただ2人だけで会うというよりも、もう一人スーパーバイザーが入ることで2人が過ごす時間も和やかにできたり、そういう意味があると思うのです。お子さんもまだ小さいですから、お母さんともお兄さんとも離れて、前のお父さんだけ会うというのは不安なことかとも思いますので、例えば今までお父さんの存在であったお兄さんも含めて3人で会うとか、そういうことも考えられるのではないのでしょうか。

※日本では、16歳から、離婚した両親のどちらの姓を名乗るか、どちらと暮らしたいかを、子どもは自分自身で決めることが出来る権利を持っています。

今日この会場では、カップルで来られた方が多くいらっしゃいますが、やはりステップファミリーというのは家族関係を作っていくというものであって、片方だけが頑張ろうと思っていてもうまくいかないものです。今回皆さんがご夫婦で参加されているのを見て、とても嬉しく思いました。ご夫婦でこういった会にご参加されるということは、成功するステップファミリーを作る第1歩です。これからもこういう会を利用して、ご夫婦で参加されることを望んでいます。

専門家向け講演会

「ステップファミリーへの支援について」

- Professionals Supporting Stepfamilies-

(本文は当日の講演内容のテープ起こしと、スピーチ原稿をもとに編集したものです)

■ ごあいさつ - 明治学院大学助教授 茨木尚子氏

それでは、これからマージョリーさんの講演会を始めたいと思います。まず、先立ちましてマージョリーさんの簡単な紹介をさせていただきます。

マージョリー・エンゲルさんご自身がステップマザーです。

今現在、ステップファミリー・アソシエーション・オブ・アメリカ、SAAの代表をされています。アメリカはもとより、世界各国でステップファミリーの支援プログラムを広げていらっしゃいます。また教育学の修士、法律学の博士号を持つ専門家としても離婚や再婚による様々な家族支援を、多くの著書やテレビ出演を通して広げていらっしゃるという方です。

今回日本で、アメリカのステップファミリーへの支援についてお話しして頂くということになりました。それではマージョリーさん、宜しくお願いします。

■ ここ数年の家族の変化

ここ数年、離婚や再婚など、非常に複雑な変化が家族関係において見られました。それは、家族の関係が流動的になっているということです。経済面、道徳面、性別役割意識などにおける社会的な変化を反映しています。

離婚、ひとり親家庭、そしてステップファミリーは、世界中で「Complicated Family（複雑な家族）」を作り出しており、世界中のいたるところで、多くの人が専門家からのサポートを必要としています。ステップファミリーが持っている問題はそれぞれ個人的なものもありますが、同時に社会的な問題もあります。

ステップファミリーというのは、「夫婦のどちらか一方、あるいは両方が、前の結婚での子どもを連れて作られる新しい家族」のことで、今日のステップファミリーは、ほとんどが離婚から始まります。

ステップファミリーには、様々なパターンがあります。夫婦両方が再婚同士だったり、夫婦のどちらか一方が初婚の場合もあります。小さい子どもがいることもあれば、もう成人した子どもがいるかもしれません。あるいは、小さい子どもと成人した子どもの両方がいるかもしれません。子ども

が成人している場合には、その子ども自身がステップファミリーの一員だと思っていないということもあります。

ステップファミリーにはこういった様々な形態があるのですが、更に文化、人種、宗教、その他様々な環境の違いによってその複雑さは更に増していきます。

●養育と面会：父親の役割

日本では離婚後、子どもが離れて暮らすもうひとりの実の親のところに会いに行くということがあまりないようです。ということはつまり、父親か母親が親権を得た場合、もう一方の一緒に住んでいない親がどこかに消えてしまうということになります。実は、このことは子どもの家族生活を混乱に陥らせてしまいます。離婚率が増えるにつれて、養育権のない親（現在、その多くは父親）が子どもとの関係をできるだけ持っていたいと主張するようになるでしょう。

アメリカでは、日本とは違って、両方の実親は離婚後も子どもの一生に深く関わっていきます。アメリカでは家族の部外者になってしまうのは、ステップの親の方なのです。必ずしも両親が離婚後も子どもと面接を続けるとは言い切れませんが、離婚する時に必要な同意書に離婚後も子どもに関わっていくかどうかという規定があるので

父親の存在については、次のような調査結果があります。

・父親の存在は重要である

アメリカの調査結果では、離婚後も子どもが自分の実の両親と接触を続けていくことが、子どもにとって良いという結果があります。この調査によれば、血の繋がった実のお父さんが子どもの一生に大きな役割を果たす主要人物であると捉えています。

・父親の存在は重要ではない

上述の調査結果とは全く反対に、父親というのは子どもの人生に全く影響がないという調査結果もあります。これは、父親を子どもの生活にとっては周縁的な存在である捉える立場です。

●家族に関する法律

アメリカでは初婚の家族とステップファミリーの生活の違いについては、一般的にあまり知られていません。それと同時に、初婚家族をもとに作られた法律や政策が、どのようにステップファミリーに害をもたらすのかということも理解されていません。

●親が2人以上いる？

裁判所では、子どもに2人以上の親がいることがよいことだとは、なかなか受け入れられないようです。しかし、離婚した親がまた再婚すれば、子どもには2人の父親と2人の母親ができるわけです。ステップファミリーには2人以上の親がいます。

●ステップの子どもに対する経済的責任

日本では、ステップファザーが子どものその後の経済的責任を負っていくケースが多いようです。しかしアメリカでは、法律上は実の親が子どもの経済的側面を含めた責任を離婚後もずっと持ち続けます。アメリカでは実の親の方が、経済的に子どもをサポートしていく存在なのです。

●ステップの親との養子縁組制度

アメリカのステップファミリーでは、継親子が養子縁組することを法律で禁止しています。ステップの親がステップの子どもを自分の養子として引き取ろうとする時には、実親の許可が必要になります。このように法律を定めるのは、ステップファミリーの方にステップの子どもの経済的負担があると法律で定めると、ステップファザーたちは再婚を喜んでするようにはならないのではないかという恐れを感じているからです。

●ステップファミリーに関する調査

日本ではステップファミリーに関する調査がまだされていません。しかし、アメリカの調査も20年前に始まったというところです。他の国々でも、実はアメリカの調査結果を活用しているという現状です。SAAには専属の研究者がいて、他の国の研究者と互いに協力しながら一緒に仕事をしています。

日本のステップファミリーの中には、自分がステップファミリーであることを対外的に公表しないという風潮もあるそうですが、この風潮はアメリカでもやはりありました。アメリカではステップという言葉がとても嫌がられているのです。それはおとぎ話の中に出てくる、「意地悪な継母」ということを思い出させるからです。

●ステップファミリー特有の問題とは

専門家として知っておいて頂きたいことは、ステップファミリーの問題の全てがステップファミリー特有のものではないという事です。

<個人的な問題>

- ・離婚後、感情をひきずったまま早急に再婚に踏み切ってしまったこと
- ・子どもがちょうど思春期で、対応が難しいこと
- ・夫婦の間で良いコミュニケーションが取れていないこと
- ・一番大きな問題は、非常に非現実的な期待をステップファミリーに対して持っているということ。それは、すぐに愛や幸せが生まれるという非現実的な期待や、ステップの親子がすぐに適応し、うまくいこうという期待であったりする。

<社会的な問題>

- ・社会にも専門家たちにも、初婚でできた家族とステップファミリーとの違いがきちんと理解されていないこと
- ・離婚によって生まれたステップファミリーは、道徳的に劣っているのではないかと見られてしまうこと（アメリカではこういった見方をされることもある）
- ・初婚の家族をもとにして作られた法律や政策

<ステップファミリー特有の問題>

- ・経済面の問題
- ・うまくいかないステップの親子関係のこと
- ・もうひとつの家庭があること（面接の問題）

世界中のステップファミリーの人たちが、特に知る必要があるのは次のことです。

- 1.あなたはひとりではないということ
- 2.ステップファミリーは初めのうちは難しいものなのだという事。これは普通のことです。
- 3.情報と適切な支援があれば、十分成功する家族になることができるということ
- 4.ステップファミリーは深い絆を持った関係を築いていくことができるということ

■ステップファミリーと初婚家族の違いについて

●ステップファミリーは喪失の結果生まれてきた

喪失とは、配偶者の死といった決定的な終わりかもしれませんし、離婚による結婚の終焉かもしれません。いずれにしても、過去に持っていた絆から決別するという事がとても難しいために、悲しみという形でそれを持ち続けることとなります。

大人は自分のパートナーを失ったということに悲しみます。そしてその喪失は、離婚やパートナーの死によって起こった変化（例えば引越しや転職など）をも含みます。

子どもは親を亡くしたという喪失感を持ちます。たとえ一緒に住んでいない親と面会しているとしても同じ事です。それから親がデートをするなど、再婚に向けた準備をし始めたときに、子どもは親の注意が自分ひとりに向けられなくなったことを悲しみます。また新しい学校への転校や新しい土地への引越しという変化に伴う喪失で悲しみます。時にはまだ終わっていない、立ち直っていない悲しみは、ステップファミリーという、新しい関係を受け入れることを難しくもします。

●親子関係が、新しい夫婦の関係よりも長い歴史を持っている

このために、新しく入ってきたパートナーが、侵入者とか部外者のように感じるようになり、家族

の一員と考えられるようになるまで時間がかかってしまうのです。ひとり親家庭であるあいだ、親子はとても密接な関係になることがよくあります。そのために新しく入ってきたパートナーが家族の中に入るのが難しくなるのです。

親子は歴史を持っています。その歴史の中にはステップの親ではなく、前のパートナーがいます。ステップの親はステップファミリーの歴史を作るには時間がかかるということに気づく必要があり、それはステップファミリーのメンバーみんなと一緒に何か思い出を作ることで、でき上がっていくものなのです。

●もうひとりの実親が別の場所にいるということ

たとえ一緒に住んでいない方の実親が子どもに全然会いに来なかったり、あるいは死んでしまったとしても、子どもの記憶の中にはずっと残ります。子どもは一緒に住んでいない親のことをずっと思い続けるという事を許されなければなりません。調査の結果にも出ていますが、離婚や再婚に関して子どもたちは、一緒に住んでいない方の親とも接触し連絡のある子どもの方が、離婚や再婚に、よりうまく適応していけるのです。

ステップの子どもたちは、ステップの親と実の親とのあいだで葛藤を経験し、どちらか一方を裏切るのではないかという問題を抱えています。ですから、子どもたちに新しいステップの親を愛してもいい、好きになってもいいのだという許可をちゃんと与えることは、実親の大切な役割です。

●子どもが2つの家庭を持つこと

子どもたちは前のパートナーとステップファミリーの2つの家庭の子どもなのだという事です。例えば母親が子どもを引き取るケースの多い日本の場合には、前のパートナーである実の父親が子どもとずっと長く時間を過ごしたいというとき、結局子どもは2つの家庭を持つこととなります。アメリカの調査結果によりますと、子どもたちは2つの家庭を自由に行き来することに、とても早く慣れるということです。どっちの家庭の方がいいかという事を子どもたちに選ばせたり、聞いたりしない限り、子どもたちは2つの家庭を持つことに、うまく適応していく力があるのです。

●ステップの親は、子どもとの人間関係を作る前に、親の役割を期待されること

すぐに親になるというのはとうてい無理なことです。生みの親というのはとても大きな役割を担っているからです。

例えば、父子家庭に、新しいお母さんがやって来る。お父さんの方はこの新しいお母さん（ステップマザー）に、自分の子どものことをもっとよく知ってもらおうよう、ステップマザーを援助する必要があります。お父さんはその新しいお母さんに子どもの小さい頃の写真を見せてあげたり、今までやってきた活動であるとか、そういうことを話してあげたりする事ができます。つまりステップマザーと子どもの間にある距離を埋める手助けを、お父さんがしてあげることができるのです。

ステップの親と子どもが同じ性別の時、子どもに実親がいるということを受け入れるのは特に難しいのです。しかし、実親について子どもと話ができるようになると、そのことが随分と家族の関わりを深めることになります。そうすることで子どもはステップの親を「Additional Parents（新しく加わった親）」として受け入れることができ、必ずしもステップの親が実親の席を乗っ取ってしまうとは思わないでしょう。

■ステップファミリーに関する神話（間違っただ思い込み）

神話（間違っただ思い込み）は、ステップファミリーのメンバーが新しい家族に適応し、お互いに向かい合おうとしているときに、強い影響を与えます。以下に挙げているステップファミリーに関する神話は、ステップファミリーとしての旅立ちでつまづく障害になるでしょう。

1 すぐに愛情あふれる継親子関係を作ることができる

これは、あなたが新しいパートナーを愛しているから、パートナーの子どものことも自然に愛するようになるとか、自分が良い人間であれば子どもたちから愛されるようになるといった期待のことで、子どもとの関係を作るには時間がかかります。ステップの親子関係は一夜のうちに、魔法のように作れません。

2 離婚や再婚を経験した子どもは一生傷ついたままである

私たちの調査結果によれば、もちろん離婚や再婚は子どもたちにとって傷つきやすい体験ですが、その子どもにとっていい家族関係があるならば、5-10年もすると、初婚の子どもたちと全く何ら変わらない幸せな子どもに成長するということがわかっています。

3 継母は意地悪だ

子どもの時に聞いたおとぎ話の影響が大きいです。ですからこの思い込みは、優しく公平なステップマザーにとっては非常に辛いことです。ステップファミリーの中でも、ステップマザーの持っている役割は最も困難なものであるという調査結果もあります。もしステップマザーであるなら、このことは既に知っているでしょうね！

4 すぐステップファミリーとしての生活に適応できる

ステップファミリーは複雑な家族であるために、メンバーそれぞれがお互いのことを知ったり、ポジティブな関係を作ったり、家族の歴史を作ることに時間がかかるのです。たいていの場合、それには少なくとも4年はかかります。

#5 実親がいなくなれば、より早く子どもは離婚や再婚に適応していく

虐待などの例外を除いて、実の両親と交流があるほうが、子どもたちの適応によいのです。このことは、子どもたちが一緒に住んでいない親と会ったり、一緒に住んでいない親のことを十分に考えたりすることができる必要があるということを意味します。一緒に住んでいない親と時々面会することは、子どもの適応と情緒的安定のためには大切なことです。

#6 死別から始まるステップファミリーの方が楽である

人々には愛する人を失ったことを哀しむ時間が必要です。再婚はまだ終わっていない哀しみを復活させるかもしれません。それに、亡くなった親は子どもたちの中にずっと生きていて、いつのまにか聖人のようになっています。つまり、ステップの親たちは聖人と競争していることになってしまいます。

#7 ずっと一緒に生活しないステップファミリーの方が簡単である

人間関係を作るには時間がかかるのです。ステップの家族関係を作ろうにも、子どもたちが時々訪ねてくるだけのステップファミリーは、それだけ時間がないために、良い関係作りができなくなってしまうのです。

#8 家族の形はひとつしかない

この神話を口にする人たちは、家族というのは初婚でできる家族だと考えており、ステップファミリーは初婚の家族と同じようにしなければならないと考えています。

■ステップファミリーの発達段階

ステップファミリーはうまくいくようになるまでに平均して5-7年かかるようです。どのステップファミリーもだいたい同じような発達段階があるようなので、ステップファミリーの困難を解決するヒントを事前に探すことができます。SAAの役員を務める調査者(リサーチャー)のひとりであり同時にセラピストでもあるパトリシア・ペーパーナウが、自らの調査結果やセラピーから得られた情報をもとに、ステップファミリーの発達段階を描き出しました。彼女は、このステップファミリーの発達段階を3つに分けました。

#1 最初の段階 3-4年間

多くのステップファミリーがこの段階に長くはまってしまうようです。この最初の段階にもさらに3つの段階があります。

1 空想に包まれている時期 (Fantasy) 背負った重荷が見えていない

ステップファミリーの生活とはどんなものだろう？ 様々な期待、不安、全てがまだ空想の域にあります。そのために、初婚でできた家族のふりをすれば、社会はステップファミリーを援助してくれると思ひ込むのです。そうすれば、外側の人たちはあまり干渉してこないだろうと思ひ込みます。しかし、実際には前のパートナーや祖父母が様々な干渉をしてくるのです。

2 現実に身を浸し始める時期 (Immersion) 沈み始め、もがき始める

現実にぶつかり、空想は崩壊し、嫉妬や怒り、不安などを感じ始めます。そしてステップの親は無視されているように感じ始め、「何かおかしい、何かうまくいってない」と思っているけれども、それがなぜなのかわからないという状態です。

3 気づきの時期 (Awareness) 問題がどこにあるかが見えてくる

「何がいけないのだろう」「どうしてうまくいかないのだろう」と考え出し、その理由がわかり始めるのです。ひょっとしたらそれは子どもたちの振る舞いのせいかもしれない。あるいは家族のメンバーが、お互いにあまり丁寧に関わっていないからかもしれない。あるいは、義理の母親が問題の種なのかもしれない。あるいは子どもたちがあなたの作ったご飯を食べてくれないといったことかもしれない。

問題がどこにあるのか「気づく」ことができるようになってから、「変化が必要なかもしれない」と思ひ始めるのです。ステップファミリーのメンバーが、それぞれ自分が持っている問題がどこにあるのかわかるようになると、次のステージに進むことができます。

2 中間の段階

1 変動の時期 (Mobilization) 家族内のズレや対立が噴出する

この段階では変化が必要になります。例えば、ご飯を食べたがらなかった子どもに、ご飯を食べなくてはいけないということを教えることだったり、食事をしているときは電話に出ないという決まりを作ることだったりします。これはステップの親たちが子どもに求める変化であると同時に、子どもたちから求められる変化であったりもします。そこにはひょっとするとちょっとした喧嘩が生じるかもしれませんが、それはそんなに大きな喧嘩や行き違いにはなりません。

2 行動の時期 (Action) 新たな家族の共同運営が再出発する

変化というプロセスを過ぎると、次は「行動」という局面に入っていきます。「行動」とは、ステップファミリーのメンバー以外の、外側の人たちへ働きかけることです。それは、授業内容などについて、子どもの学校の先生と交渉することかもしれません。あるいは、子どもたちが、もうひとつの家

に面会に行く時のスケジュールを一緒に組むことかもしれません。

●最終段階…1～2年間

1 関係深化の時期 (Contact) …継親子関係が親密になり本物になる

ステップファミリーのメンバーたちが互いに接触し、関係を深めながら一緒に家族を作り始めます。ステップの親子が共に仲良くするという期間です。もし問題が起きたとしても、この関係の中でうまく話し合いをすることができます。夫も妻も一緒に幸せな時期を過ごせるようになります。

2 連帯達成の時期 (Resolution) …自然体で家族関係が維持できる

ステップファミリーの新しい歴史が出来始めます。休日や、夏休み、お正月休みのときにみんなで一緒に撮った写真などがこの期間で出てきます。実子、ステップの子ども、ステップの親、実親、みんなが「みんな一緒の家族なのだ」という気持ちを感じるようになってきます。たとえ子どもが、一緒に住んでいない実親を訪ねていっても、そのことが必ずしも問題にならなくなるのです。

■ステップファミリーの当事者たちは、専門家やSAJから何を必要としているか？

SAAの目的は、ステップファミリーのメンバーに「普通の家族である」と思ってもらうための支援をするということです。ステップファミリーを取り巻く社会的な影響から、生涯にわたってステップの親子関係をサポートしていく必要があります。

家族生活は様々な側面を含んでいます。家族の成功あるいは失敗は、対人関係能力、そして経済的資源、教育の機会、法的なこと、家族の中での子どもの役割、宗教上の信念、社会的習慣、雇用機会、政治的な力に大きく左右されています。

今日、ステップファミリーという家族の形はもはや特別ではないというものの、専門家の人たちが初婚の家族とステップファミリーの違いを必ずしも知っているというわけではありません。たいていのステップファミリーが持っている問題というのは、最初の家族が持っている問題と、それに加えたステップファミリー特有の問題があります。

2001年2月に、SAAでは当事者と専門家向けにとっても大きなカンファレンス（会議）を開いています。このカンファレンスというのは4つの分野に分かれて開催され、ステップファミリーメンバーや、教育、経済・財政、法律、宗教、ソーシャルワーク、心理学や精神医学、職場、公共政策など、多岐にわたる分野に関わっている専門家たちに対して様々な洞察を提供するものです。

1 子どもたちのために (Children at the Crossroads)

ちょうど過渡期、分岐点にいる子どもたちについての最新で役立つ情報を提供しています。裁判所の、特に親権に関するような問題、子どもの虐待、学校の役割、法律、セラピー、お金などといった情報を提供しています。

2 夫婦関係のために (Couples in Step Day to Day)

お金や子どものしつけなど、ステップファミリーに起こる問題に対して夫婦で意見がくい違ったときに、どのように相談してひとつにまとめていくかということです。

3 家族の役割とサポートシステム (Family Roles and Supports)

実親やステップの親、ステップファミリーの親族に役立つ多様なサポートはもちろん、複雑な家族役割に関連する情報を提供しています。

4 ステップファミリーと社会 (Stepfamilies and Society)

ステップファミリーの社会的な見え方に強い影響力を与えるマスコミの力に焦点を当て、教育や職場、法律、公共政策におけるマスコミの影響力を取り上げます。

●専門分野それぞれの責任

SAAには専門家の人たちがいますが、彼らは自分の持っている専門性を活かしてSAAプロジェクトを立ち上げています。

- ・セラピスト：ステップファミリーの大人に対しても子どもに対しても、どのように対応すべきか知る必要があります。
- ・子どもの成長や心理的な変化に関する専門家：子どもたちが離婚や再婚でどのように変化しているかということと、家族のなかでの子どもの役割を知る必要があります。
- ・医者：離婚や再婚を経験した子どもたちの身体的な変化（たびたび腹痛をおぼえるという症状など）について知る必要があります。
- ・弁護士、法律家：どういった法律がステップファミリーの役に立たないのか、害があるのかを知る必要があります。アメリカの問題は主に、ステップの親はステップの子どもに対して経済的な負担を背負いたくないと思っていると法律家が考えていることと、遺産相続権に関する法律についてです。
- ・教師：子どもたちの持つ問題の困難さを知る必要があります。例えば学校の行事のお知らせを送るような時にも、ひとつの家庭に送るのではなくて、子どもが2つの家庭を持っているのであれば、

父親と母親の両方に送らなければならないという配慮が必要になります。

- ・ファイナンシャル・アドバイザー：ステップファミリーでのお金の役割と、その分配や管理能力について長期プランをたてていく手助けを適切にしていかなければなりません。
- ・職場の専門家／事業主：ステップファミリーの医療面及び医療費に関する対処について考えなければなりません。
- ・ステップファミリー専門家：ステップファミリーの人たちのために、ロードマップを与えることが必要です。そのロードマップには、ステップファミリーとしてどのように生きていったらいいのかについての指摘やアドバイス、そしてステップファミリーの人たちが感情的にどんな局面を迎えるのかという情報や、ステップファミリーの大人たちが良いチームとなるにはどうしたらいいかという情報も含まれています。

●カウンセリングとファミリー・ライフ・エデュケーション (Family Life Education=家族生活教育)

日本の家族にはあまりカウンセリングを受けるという習慣が無いようですが、その理由のひとつに医療保険が適用されないからという理由もあるのでしょうか。これは日本だけに限ったことではありませんが、カウンセリングを受けるということはとてもお金のかかることなのです。

カウンセリングを受けることを、『なんかいやだなあ』と思うのは、カウンセリングを受けることは『自分が弱いから』だと思っているからではないでしょうか。アメリカでもやはりそういった反応はあります。

ですからSAAでは、ステップファミリーについて学ぶというプロセスに、他の名前を与えています。このプロセスをカウンセリングとは呼ばずに、「ファミリー・ライフ・エデュケーション (Family Life Education)」と呼んでいます。ですから多くの方がサポートグループや教育グループに積極的に参加しているのです。

■SAAによる専門家教育プログラム

●ステップファミリー入門

SAAが行なっている専門家向けのトレーニングプログラムは、1年に2回行われています。「ステップファミリー入門」はそのコースのパート1にあたります。このセミナーには2日間かかり、最新の調査結果の概要や、主に離婚から再婚を経てステップファミリーとなるまでの変遷に関する重要

な情報を提供しています。ステップファミリーに関する概要については、アメリカのステップファミリー専門家が教える側になります。

1日目：概要

- ・ 離婚から再婚までの過渡期に起こる情緒的・実際的問題について
- ・ ステップファミリー生活の基本的なダイナミクス（力動・力学）——特にメンバーそれぞれがステップファミリーでどのように成長していくか
- ・ 最新の関連調査からの知見
- ・ 専門家にとって重要な実践とその応用

2日目：最新情報

- ・ ステップファミリーの混乱に立ち向かいながら、カップルが強い絆をどうやって築いていくか
- ・ ステップの子どもについての見通しと、彼らの適応を促進するための方法
- ・ 効果的なステップの父子関係とステップの親による子育てのパターンについて
- ・ ステップマザーの問題を調査する事と、両親揃って子育てをするプロセスを強調する事など。

●ステップファミリーセラピーの実践プログラム

この2日間のセミナーは、上記セミナーを終了したSAAの会員であり、既にステップファミリーに関しての知識を積んだ臨床家に対して開かれているものです。このトレーニングは、ステップファミリーセラピーについて専門技術を持ったスーパーバイザーによって企画され、伝授されます。

1日目：ステップファミリーセラピーの概要

1日目は、受講者自らがステップファミリーのロールプレイを行ない、今日ステップファミリーが持っている強さと弱さについて学びます。ロールプレイの手順は、スーパーバイザーが受講者のなかから5～6人を選び、それぞれがステップファミリーメンバー（実親・ステップの親・ステップの子ども・実子）の役割を演じます。時には前のパートナーという役割を増やすこともあります。このステップファミリーのロールプレイをすることになった人たちは、プログラムが始まる2週間前から一緒に暮らした後、カウンセリングやセラピーを受けることになります。受講者たちはロールプレイによって実際にステップファミリーがどのようなことを体験しているか、どのような問題がステップファ

ミリーセラピーの対象になるのかということを理解していくのです。

2日目：セラピーの実践練習

1日目のステップファミリーのモデルに対して、スーパーバイザーが実際にセラピーを行なっていきます。そしてステップファミリーセラピーに効果的なセラピーモデルと方法論を提供し、受講者たちはセラピーの実践演習をしていきます。時にはこのセミナーの受講生の中で、実際にステップファミリーメンバーである人が参加することもあって、その人たちから質問を受けたりディスカッションをしたりします。

●「スマートステップ」

SAAは、ステップの親とステップファミリーに関するデータや情報を日々刷新しています。SAAの創始者であるエミリー・ヴィッシャーとジョン・ヴィッシャーが、5年以上も前にステップファミリーのトレーニングプログラム「Step Together」を書き始めました。今夏に公開される新しいプログラムは「スマートステップ」と言って、ヴィッシャー夫妻がこれまで蓄積してきたデータや情報に、現在のSAA会長であるマージョリー・エンゲルによって最新の現状を加えたものです。

ステップファミリーの大人のための「スマートステップ」は、6ユニットに分けて行なわれます。そこでは、アメリカにおける家族の多様性、ステップファミリーに関する神話（間違っただけの思い込み）、ステップファミリーメンバーのための現実的な期待や考え方、ステップファミリー発達段階、ステップファミリーに関する法律や経済的側面、メンバーの役割と家族ルールの定義、子育て、ステップの親子関係、前のパートナーとの関わり方、ステップファミリーでの子どもの生活を理解する事、ステップファミリーメンバー同士で愛情ある関係を築いていくことについてディスカッションします。

子どものための「スマートステップ」も同じような段階を踏んでいきます。このプログラムは6歳から17歳までの子どもたちを対象としており、子どもたちは家族がもっと幸せになるためにどんな貢献ができるか、ということをお話します。これによって子どもたちがステップの親に対して、より現実的な対処ができるようになります。

そして、家族がより絆を強めていくための方法を提供します。この「ファミリー・ライフ・エデュケーション」とは、家族をこれから新しい家族に成長していくためのスタートポイントに立たせるという事です。実際にサポートやアドバイスを必要としている多くのステップファミリーに対応できるように、このプログラムではステップファミリーに関する専門的な知識を専門家に提供しています。専門家はその知識があるからこそ、ステップファミリーの人たちにどのように接するべきかを学ぶことができるのです。

●ステップマザープログラム：「I didn't grow up to be a Wicked Stepmother」

これは実際に自分もステップマザーであり、学校のカウンセラーをしている女性が書きました。このプログラムは小さいサポートグループで使用するのに適しています。

このプログラムは、

1. あなたはひとりではありません
2. ステップマザーの役割
3. パートナーとの関係
4. 結婚生活において愛情は最優先事項
5. パートナーとのコミュニケーション
6. パートナーとの関係の尊重
7. ステップの子どもが直面する困難
8. 意地悪な前妻
9. 行動に移す
10. ステップマザーのサポート
11. 学校とステップファミリー
12. ステップファミリーの祝祭日
13. 希望と救いはある

という 13 の章から構成されています。

初代 SAJ 代表が参加したコロラドで行われたステップマザーのサポートグループは、実際のローカル・チャプター（SAAの地方支部）ではなくて、バーチャル・チャプター（SAAのインターネット上の支部）です。このグループはインターネット上に非常に積極的なBBS（掲示板）を持っており、様々な場所に住んでいるステップマザーがそこで自分の体験や思いを分かち合うことができます。セルフヘルプ・グループ活動をインターネット上で行なっているわけです。春名さんは、その活動をインターネット上で見つけたわけですね。彼女たちは、SAAのプログラムを自分たちで購入して、それをグループで活用しています。実は去年のコロラドのセミナーというのは、その支部のステップマザーたちが初めて会う機会でした。彼女たちは来年、また同じようなセミナーを開こうと計画中です。彼女たちのセミナーは、ステップマザーに関する本を書いた著者を招いて行ないました。コロラドでは招待した著者の方が、ステップマザーであると同時にセラピストでもありました。

彼女たちのバーチャルチャプター（インターネット上の支部）は、SAJが立ち上げた LEAVES というサポートグループのモデルになっています。

取り上げた例がステップマザーばかりなので、フェミニストだと思われなくようにするためにも、ネット上のバーチャルチャプターをステップファザーのために作ろうと思っています。もちろんステップファザーも大きな焦燥感などの多くの問題を持っています。

専門家向け講演 Q&A



Q1-1

アメリカの法律は、最初の結婚を前提としている、つまりステップファミリーのような家族を前提として法律が作られていないので、ステップファミリーにとって非常に問題があるということがスピーチの中にありましたが、具体的にどのようなことが問題になるのか教えてください。特に養子縁組をしないということは、アメリカでは子どもの名前はどのようにになっているのか、教えてください。

A1-1

法律は、もちろん家族の生活をそのまま反映するものです。今の法律は、ステップファミリーの人口がまだそれほど多くなり前に作られたものです。

血の繋がりのある親が亡くなった時のことを前提に、初めてステップファミリーの法律が作られ始めました。けれども、今日は死によってではなく、離婚によって誕生したステップファミリーが大多数というのが現状であるにもかかわらず、アメリカでは、現在はまだ、ステップの親は法律的にステップの子どもたちとの関係を認められていないのです。ステップの親が子どもに対して何の権利も持つことができないのです。これはどんなにステップの親たちが、ステップの子どもたちが小さい時から、教育に関わってきたとしてもです。例をあげますと、ステップの親のもとで子どもがひどい怪我をして、病院に行ったとします。病院側はその子どもを診る為に、子どもと血の繋がった親たちのサインを必要とします。ステップの親には、親として適切な医療を子どもに与えるという許可の権利がないのです。実際にその血の繋がっている親が子どもに会うのは、年に1回とか2回しかないわけで、子どもと一緒に暮らしているのは、ステップの親の方なのです。そのようなケースでも血の繋がった親のサインだけが有効というのは、子どもにとって一番の利益ではないと思います。

また、アメリカで子どもを養子縁組するという時は、実親は、子どもに関する全ての権利を放棄す

るという事です。ということは、血の繋がりのある父親はもう子どもに会うことはできません。その父親の親たち、つまり、おじいちゃんおばあちゃんもその子に会うことは絶対にできないのです。それは、遺産相続等に関しても同様で、全く関係なくなります。日本では、子どもがステップの父親（継父）、血の繋がりのある父親（実父）の、両方から相続できると聞いています。SAAでは、アメリカでもそのようになればいいと思っています。ステップの親たちのための新しい養子縁組の形を求めています。血の繋がりのある親たちが全ての権利を放棄して、どこかに行ってしまうなくてもいいというあり方です。

法律が、今現在の家族の在り方に合うようになり、ステップの家族、ステップの親達が、本当にふさわしい地位を正式に獲得して欲しいと思っています。親の代わりではなくて、新しく加わる親というかたちで、です。

Q1-2

死別の場合は、養子縁組に関して同意が必要なのでしょうか。

A1-2

死んでしまったら、その人からはもらえませんが、生きているほうの親のサインが必要です。

ステップの親と血の繋がりのある親が離婚した場合に、ステップの親はその子どもに会いに行く権利が全くありません。でもこれは子どもが本当に小さいときに限ります。子どもが大人の場合は、子どもの意志にまかせて好きにさせていいわけです。

それから、ステップファミリーにおいて、血の繋がりのある親が亡くなってしまったというケースも、たくさんあるのです。そういった場合、子どもはステップの親（継親）と離れて、離れて暮らす実親と一緒に住むことはできるのですが、たとえ子どもとステップの親（継親）と一緒に住みたいと言っても、ステップの親たちにはそれを続けていく権利が全くないのです。でもこれもあまり理にかなっていませんよね。

Q2

アメリカの、養子縁組しているステップファミリーと、そうでないステップファミリーの割合を教えてください。

A2

アメリカのステップファミリーでは、養子縁組というのは非常に少ないです。というのは、ほとんどの子どもは実の親が生きていて、他の所に住んでいるからです。

けれども、未婚の母親が結婚する時に、養子縁組することは多いです。彼女にとっては最初の結婚

ですが、新しい夫になる人は彼女の子どもの血の繋がった父親ではないわけですから、ステップファミリーになるのです。このケースでは、子どもの血の繋がりのある父親は、その子どもに対して一生関わりを持っていないことが多いので、スムーズに養子縁組できることが多いのです。アメリカのステップファミリーの中でもこのようなケースはだんだん増えてきています。

Q3-1

実の親との関係を切らない養子制度が日本にはあります。そういう養子制度を今後、アメリカで導入しようとされているのでしょうか。

A3-1

その通りです。

Q3-2

実子の権限は残しておいて、養子縁組をしないで、ステップファミリーの権限を獲得していくという方法もあると思うのですが……。

A3-2

今日はまだそういうことはできません。

私は、結婚、特に子どもを含めた結婚が、新しい法的な権利を得るという道ができればと思っています。しかし、実を言うと、ステップファミリーは、50%もの離婚率を含んでいるという現実があります。ですから、3度目の結婚もあるわけです。そうなる子どもはもっとたくさんの親を持つ可能性も出てくるわけですから、そういった可能性を含めて考えると、法の改正にはあらゆるケースを想定しなければなりません。

アメリカでは、法律的な人間関係を確保するというのが、実はステップファミリーの関係をよくすると思っている人が多いのですが、ステップの親が、その家族の一員だということがもっと自分たちの中で一般化することも大切だと思っています。

Q4

SAAではたくさんのステップファミリー研究をなさっているということですが、どのようにして調査対象のステップファミリーをサンプリングなさっているのでしょうか。それからその調査にかかる費用はどのような形でその資金を得ているのか、それから、具体的にどのような調査をしてきたのか教えてください。

A 4

SAAとしては独自に調査をしているということはありません。私たちはボランティアがベースの会員制の組織です。会員の中には、大学教授、弁護士、医者など専門家がたくさんいます。そしてその人たちがリサーチをしています。その内容は、ほとんどが人間関係についてのリサーチです。例えばステップファミリーのメンバーがどんなふうによくやっているか、どういうふうにステップの親がステップの子どもたちとうまく関係を築いているか、血の繋がっていないきょうだい同士がうまく関係を築いているかなどです。

3年前に、ステップファミリーの家計についてのリサーチを私自身が始めました。この私のリサーチ結果を、会員の中で分かち合うわけです。私以外にも多くの方が独自のリサーチをしています。大学の教授たちは自分の専門のリサーチをしていますし、論文の為にステップファミリーの研究をしている人たちも中にはいます。教授たちは自分の仕事のために、自分が研究したものを出版しなくてはならないわけです。ですから、大学の方では学生たちに自分の興味のあるものをリサーチしてもらうということもあります。

リサーチに必要な費用は、大学や、何かの基金、実際に調査している人たちの自費で、といった方法で賄っています。私が家計に関するリサーチをした際には、ある経済に関する組織へ頼みに行きました。3つの会社が、そのリサーチをしていくのに足りる分だけのお金を少しずつ出してくれました。お金を獲得するのはなかなか難しいです。政府には健康と人々の暮らしに関するお金を担当する部署もあります。でもそういう基金の補助金に登録しても、通るのはすごく難しい状況です。

それから、どういうふうにステップファミリーの対象者を見つけるかというご質問ですが、調査の対象になる人はたくさんいるわけですね。その一番簡単な方法はSAAの会員の人達を対象とする方法です。会員さんがSAAに入会する際にカードを書いてもらっているのですが、その質問状のなかに「あなたの名前をリサーチのために、特定のリサーチをしてくれる人たちに渡してもいいか」という項目を入れています。もちろんそれを外部に売ったりしません。もちろん極秘の情報です。

しかしながらそれは全国規模のリサーチとしては、全国規模のランダムな取り方ではないですよ。彼らはもう自分でSAAの会員になるということですから、既にある程度偏ったサンプルですよ。SAAの会員になる人たちは、既に何らかのサポートを自ら欲しいと思って来ています。当然その人たの中には、問題のない人は含んでいません。SAAの会費を払いたくないという人も含んでいません。全米から無作為なサンプルを取ろうとすると、それには多くの費用がかかることでしょう。ですから、全国的な大きなサンプルをもとにした調査というのは非常に少ないです。私たちは、自分たちがやったリサーチの中から一般的な姿、形を予測、推測しているわけです。その結果が、全国レベルの大きな調査結果とは、ひょっとしたら違うかもしれない可能性はあります。

アメリカにおける人口動態調査の統計は、質があまり良くないのです。それは、ステップファミリーといった時にどういう人を数えているかという点、「母親と継父と暮らしている子ども」という家族を数えます。その統計には、「父親とステップマザー（継母）と暮らしている子ども」は含みません。実親の家族とステップの家族と、半分ずつふたつの家族で暮らしている子どもも含みません。「未婚のお母さんをもとにしたステップファミリー」も除外しています。一緒に住んでいるけれども、法的には結婚をしていない世帯や、ホモセクシュアルの人たちの結婚で、法的に結婚できない人も対象としていません。けれども、それらの家庭にも、全くステップファミリーと同じ家族関係があるわけですから。その新しいカップルのひとりの方は、実際の子どもと全く繋がりがいいわけですから。

つまり、実際には、アメリカの人口動態調査とは違う形のステップファミリーがいくらでもいるのです。私はどうしてこういう全部のステップファミリーを網羅しないのか、と聞いたことがあるのですが、答えは費用がかかりすぎるということでした。

Q5

ステップファーザー（継父）への取り組みはどのようにお考えですか？ 男性はなかなかサポートを求めることが少ないので、ステップファーザーへのサポートについて教えてください。

A5

アメリカでも男の人を扱うのは、とても難しいことです。家族の中の人間性というのは、どうも女性の分野だと思われているみたいですね。女性の中でもそういう意識がありますから、どんどん知識を広げているけれども、その一方で、男性は知識や経験が全然進まないという状況があります。ですから、そこにはどんどん違いの格差が広がっていってしまいます。

しかしながらアメリカでも父親たちの運動がどんどん大きくなっています。というのも父親側から、離婚後、子どもとの接触をもっと強めたいという意向がどんどん出てきたからです。80%の離婚男性が再婚をしています。その多くが離婚後2年以内に、半分は1年以内に再婚しています。彼らは自分の血の繋がっている子どもと一緒に時間を過ごしたい一方で、ステップの子どもと、もっと正式に認められた関係を築きたいと思っています。最近の彼らの努力は、血の繋がった子どもと時間を過ごしたいという方向に向かっています。

アメリカの男性はセラピーが得意ではありません。時には、妻の方が脅かして夫を連れて行く、という状況もあります。このことが多くのセラピストが、ステップファミリーのことを理解し得ていないというひとつの理由になっています。夫がセラピーに来ないと、セラピストはその家族を援助することができないのです。ステップファミリーではない、初婚の家族の場合も同じです。妻は夫をセラ

ピストの所へ連れて行くことができず、自分自身も援助を受けることが結局はできないでいるわけです。

だからこそ、専門家の方がステップファミリーに関する知識をあらかじめ持つておく必要があるのですが、残念なことに専門家のほとんどが、今持っている知識以上のことは必要ないと思っているようです。もしも、ある専門家の人がステップファミリー当事者だとしたら、自分は経験者だから、ステップファミリーのことだったら何でも知っているというふうにするわけですね。そして自分の知っているステップファミリーの経験を他のステップファミリーもみんな経験しているはずだと思うのです。そこで、せっかく与えたアドバイスが全然見当違いだったりするわけです。これがアメリカにおいては大きな問題です。

Q6

日本のように、家族の問題は個人（プライベート）の問題であって、なかなか社会の問題にはならないということが前提にあると、どうしてもステップファミリーというのは、問題のある家族とか、混乱性とかがマスコミに報道されがちです。ステップファミリーのポジティブな面を広めていくためにどういうふうにマスコミとステップファミリーの組織が付き合っていくべきか、アメリカの例をもとにお願いします。

A6

もうそれは、まさしく私が毎日直面している問題でもあります。マスコミは、センセーショナルな話題が大好きです。でも、テレビに出たいという家族の人には、変わった人もいます。ですから適切な情報を流そうとしても、マスコミ自体が特殊な側面を報道しているということがありますから、とても難しいことです。残念ながらそういったクレイジーな番組でも、そこにSAAのウェブサイトのアドレスを入れてくれるというだけで、SAAにとってはありがたいことです。ですから、私の専門家としてのプライドも飲みこんでやっているというのが現状です。

けれども、ここ10年ぐらいの間に、変化が出てきています。いろいろな番組が特殊な企画から出発するのですが、半分ぐらいの番組内容の中には必要ない情報や、うまくいくための秘訣を盛り込んでくれたりします。もちろん電話番号やウェブアドレスもいれてくれます。

組織を運営するということには、メディアの対応も含まれます。そして、そのメディアを使って他の専門家を紹介するという働きもあります。私はSAAの窓口となっています。

私自身、メディアに対して、ステップファミリーのポジティブな側面を何度も何度も伝え続けています。何度も取材に来てくれる記者は、だんだんポジティブな情報を流してくれるようになります。番組の内容は、私も一緒になって作っています。ステップファミリーに問題がたくさんあるというこ

とを取り上げると同時に、安定したステップファミリーの人たちのことも取り上げるようにしています。

私には、2人の血の繋がった娘と、3人のステップの娘と、そして7人もステップの孫がいますが、ステップファミリーの一員であることは、非常に喜びの大きい、そして実りの多い経験だと思います。

今後、日本でも多くの専門家がステップファミリーのニーズに気づき、対応していかれることにできるかぎりの協力をしていきたいと思います。ありがとうございました。

参加者の感想 会場アンケートより

- ・自分が現実的でない期待や思い込みから傷ついていたこともわかって、いろんなヒントを得られました。
- ・実践している方の話が一番ためになります。
- ・アメリカで、実際どのような活動をしているのか、もう少し具体的にききたかった。
- ・活字ではわからない生の声をお聞きすることができた。
- ・『ステップファミリー』の本の内容とほぼ重なるが、実際に話を聞いて、よりわかりましたし、同じ経験をされてる方がたくさんいると感じ活力になりました。
- ・今日のはじめて参加させていただきました。日本での活動を応援しております。明日のTVも見ようと思います。ありがとうございます。
- ・今後もステップファミリーの講演会や交流会を活発にして頂きたいです。大衆的に「ステップファミリー」の名が広がっていくような活動を期待しています。
- ・会員同士のコミュニケーションの場が欲しい。今はインターネットで情報を集めるのは簡単ですが、やはり顔を見合わせての話し合いの場を持ちたいです。
- ・また、このような講演会が催されると良いと思います。大学の先生方のお話も、もうすこし聞けたらよいとおもいます。入場料(受講料)などはもっと多くの方が気楽に参加できるようコストをさげることが検討してください。(会の存在を1人でも多くの人にアピールして、SAJを発展させてください)
- ・離婚歴があり、子供がいるということに他人からマイナスイメージを持たれそうで、周りの友人も事情の知らない人と話すときもあえてそのことを話すようなことはしませんでした。でも、インターネットで「ステップファミリー」を知り、今回講演を聴き、自分だけで悩まなくていいんだな、という気持ちになれました。
- ・男性のかかわり(ステップの)の具体事例が聞きたい。
- ・LEAVESに期待しています！お疲れ様です。

- ・何事も最初にはじめることは苦勞がたえないとおもいますが、頑張ってください。ただし、自分のファミリーも大切にしてください。
- ・いろいろな立場のステップファミリーがいることを知りました。その方々とざっくばらんに話す場があるとすごくいいなと思いました。
- ・ステップになる前の話を聞けたこと、ステップの成功法などとても勉強になりました。彼とこれからステップファミリーとなる時、役立てていけるようにしたいです。
- ・前夫が子供の全ての責任を持っていない今、彼と2人で子供を育てていきたいです。面会をさせたくても、前夫が希望していないので、実現は無理で、子供たちに男親からの愛情を注いでくれる彼との時間を大切にしていきます。
- ・これからもSAJの運営、がんばってください。私が手伝えることは何でもします。声をかけてください。
- ・今後いろいろなプログラムを展開していくようですが、その中にプレとして心構えをつくることのできるプログラムもあると嬉しいです。
- ・また、このような機会があったらいいと思う。むずかしいかもしれないが、値段がもう少しおさえられるともっといいかも。
- ・再婚に興味があり、またその希望もあるので、今回のイベントに参加させていただきました。子連れの再婚は離婚のときとはまた別の種類のエネルギーが必要のような気がします。でも、あえてそのエネルギーを費やしてでも新しい家族をつくりあげていこうとする方々の前向きな姿勢に刺激されました。私もいつかステップファミリーになれば…と思います。
- ・とてもあたたかい雰囲気のイベントだったのではないかと思います。当事者のお話も専門家のお話も、どちらもたくさんお伺いできる会がこれからもどんどん開かれることを心よりお祈りいたします。
- ・やはり直接にお会い出来て良かったです。日本の中にステップファミリーがまだ多くいると思うし、その人たちが1人で苦しむことのないように、お手伝いをしていきたいです。SAJとしては私の夢という感じですが、ステップファミリーのために、心を癒される音楽会を開いてもらえると（私が主催しても…ムリなので）いいなと思います。
- ・会員同士が交流し、悩みを解決できるようなシステムを作っていかれるとよいと思います。（社会的なことなど変わっていくことを望みます。その結果、交流もしやすくなるからです）
- ・オフ会の開催。継子に対するプログラム。個人的に、英語を勉強しようと思いました。
- ・早くステップファミリーが公にできる社会になって欲しいと思います。お話しがあった立場毎の集まりにぜひ参加したいと思います。
- ・パソコンを持っていないので、インターネット上以外の活動も期待します。今まで、まわりに同じ立場の人がいず、孤独な思いで子育てしてきたので、こういう会があるということは、心強いです。
- ・エミリーさんが亡くなったということを知ってとっても悲しみを感じました。テロのまっただ中のアメリカからわざわざマジョリーさんに来ていただき、本当に感謝しています。私の彼は現在ニュ

ーヨークにいたので、この危険な状態のときに、日本に来てくださって、どうもありがとうございます。

- ・東京地区におけるSAJのお手伝いができればと思いました。
- ・今回ほんの少しですが、お手伝いさせて頂き春名さんの苦勞を直接聞くことができました。SAJの活動も徐々に認知されるようになってきているようで、これからだなぁと実感しました。これからも、もしお役に立てることがあれば、協力させてください。これからもがんばってください。
- ・自分よりも大変な経験をされてる方が、たくさんいると感じましたし、SAJの今後の発展に期待します。自分にできることがあれば、協力していきたいと思います。
- ・講師の方を撮るのはかまわないが、カメラがこっちに向いていることが何回もあり、集中できなかった。
- ・困難の数を思うと、子が育つまでシングルでいられないかと思わず考え込んでしまった（私自身、ステップは望まず、子が成人してシングルになったので）。けれどもSAAの具体的な支援のあり方は大変参考になった。米国との意識は遠いと思うけれど、すごく大切なこと、通訳さんお見事1人で長時間お疲れ様です。
- ・ステップファミリーの子どもの視点も少し組み入れていただいてもよかったかもしれません。初めの段階で一番混乱するのは子どもではないでしょうか。（ソーシャルワーカー）
- ・私は保育士として働いています。今度、子ども達と関わっていく中で、ステップファミリーという家族形態は増えていくと思い、今回お話を聞かせていただきました。これをきっかけにステップファミリーの方々に適切な支援ができればと思いました。とても有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。
- ・臨床心理士を目指しています。以前から関心があったので、やっと実際に話が聞けてよかったです。
- ・メーリングリストによって会員同士語り合ったりできればいいですね。
- ・参加者で話し合い、交流会があればいいかな。でも初対面は難しいかな。解答できにくいことは参加者で「みなさんどうしてますか、どうですか」ときけば、話し合いに深まりがあるのではないのでしょうか。
- ・小学校教師をしていますので、性教育での1人親家庭・再婚家庭の児童についての指導も様々です。お役に立つようでしたら、ご連絡ください。
- ・現在独身なので今後の為になれば良いかなと思っています。
- ・ステップファミリーではないのですが、私が高2のときに両親が離婚をしたため、いろんな点で振り返ることができたように思います。今日のSAJの出会いを大事にしたいと思います。
- ・今回の集まりについて、アメリカと日本との違いがあって、現実の生活に反映しにくいものがあると思いました。これからは互いの意見の交換を望みます。
- ・とても貴重な話を聞くことができたことや、主人にも話をきいてもらえてよかったです。いろんな家族が交流して、皆でステップアップしていけたら、いいなと思います。



「ステップファミリー支援イベント」実施報告書の再配布にあたって

本資料は、2001年11月に行われたSAJ主催「ステップファミリー支援イベント」の実施報告書（抜粋・再版）となります。

当初このイベントおよび報告書の作成・配布は、助成金事業として完了しました。

その後10年の歳月を経ましたが、本資料にこめられた情報やメッセージは、現状の日本の家族社会においていまだ大変有益であると考え、再発行を決定いたしました。

より多くのステップファミリーの当事者、プレステップファミリー、そして、彼らにかかわる人（親族、援助者、また家族にかかわる専門機関の方々）に読んでいただきたく、SAJ発足10周年を記念し、本資料は無償配布（電子ファイルのみ）といたします。※製本した冊子については有償（実費）配布となります。

SAJおよびSAAは、多くの当事者や専門家のボランティアによる善意によって運営されています。

著作権については当該団体が有し、保護を受けているものであり、当該団体に無断で複写・転載することは禁じられております。

本資料は個人利用や研究を目的とした福祉的利用にのみ複写を許可し、商用利用は禁止いたします。また、二次配布は無償においてのみ許可します。

文中の固有名詞について

- ・ 春名ひろこ：SAJ 初代代表 創設者(2001-2004)
- ・ 茨木尚子：現在は明治学院大学 社会学部社会福祉学科教授 SAJ 運営委員
- ・ SAA：現在はNSRC (**National Stepfamily Resource Center**) 前身のSAAから本拠地をオバーン大学に移し、全米のステップファミリーのための情報センターとなる。

<http://www.stepfamilies.info/>

第1回ステップファミリー支援イベント
マージョリー・エンゲル氏 講演 資料

2010年9月15日発行

発行 SAJ 出版部

編集 緒倉珠巳

www.saj-stepfamily.org

info@saj-stepfamily.org

〒664-0885 伊丹市昆陽泉町6-8-9 SAJ 事務局

本書は著作権上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、SAJ (ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン) から文書による許諾を得ず、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。